

2023年度 児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表： 2024 年 4 月 30 日

事業所名 くずはドリームクラブ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		3名までの小グループでの療育を行い、十分なスペースと安心できる空間を確保して行えるように工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		配置基準を超える十分な職員を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		必要なものを適切な位置に配置し、集中して興味を持てるように工夫している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		いつも清潔で明るい空間を保つようにしている。掲示物や大型玩具を設置して、居心地のよい場所になるよう入って配慮している	
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		職員の意見を広く取り入れて業務改善を進め、業務の効率化を図っている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		アンケート調査結果を会議で検討しながら、さらなる改善につなげていくようにしている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		結果についてはホームページで公表し、事業所に評価のファイルを置いて保護者様が閲覧できるようにしている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	<input type="radio"/>		外部の同業者に定期的に参観していただき、意見をいただいて、よりよい内容に向けた取り組みにつなげている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		随時、新しい情報を取り入れ、研修の機会を設けている。	
適切 な 支援 の	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		毎日のミーティングでのプランの共有とともに、アセスメントを実施している。また、必要に応じてケースカンファレンスで検討している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		言語面、認知面、行動面、社会面、処理能力など各分野において、標準的なスケールに基づいて評価、判定を行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		「発達支援」「家族支援」「地域支援」の各支援内容から、お子さんにとって必要な項目を選択し、具体的な支援内容を盛り込んでいる。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		児童発達支援計画に沿って、毎回プランを作成、実施記録を作成して内容の振り返りをしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		プログラムはチームで立案し、チーム内で検討して共有している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもの状態に合わせて工夫したプランを毎回作成している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		週に複数回利用されるお子様で必要と判断した場合は、個別活動と集団活動の両方を組み合わせた内容を組み込んでいる。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日ミーティングを行い、その日の療育の内容、役割分担、またその他共有すべき内容をスタッフ全員で確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終了後には振り返りを行いフィードバック時に保護者から得た情報も共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		療育終了後には実施記録を作成し、ミーティングやカンファレンスなどの内容は随時記録して、検討・改善につなげている	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		お子さまの変化や成長、新たな課題について日頃から話し合いを行い、必要に応じて支援計画の見直しを行っている。		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○	そのような出席の依頼がなかったが、今後ある際には参画したいと考えている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて、関係機関と連絡、連携をとり、方針を確認しながら支援を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		現時点では対象のお子様がいらないが、いらっしゃる場合は連携した支援を行うことができる状況である。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		現時点では対象のお子様がいらないが、いらっしゃる場合は連絡体制がとれる状況である。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		現在対象となるお子様がないが、必要があれば情報共有や相互理解を図ってきたい
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		現在対象となるお子さまがないが、必要があれば、情報共有や相互理解を図り、連携した支援を行うことができる状況である
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		協力医療機関の岡田クリニック(思春期・児童精神科)より助言や研修など、適宜受けている。また、外部講師を招いての研修を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		当事業所は専門的な療育プログラムを重視しているためそのような期間を積極的に設けてはいないが、今後必要に応じて検討したい
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		当事業所に関連する協議会には、機会があれば積極的に参加したい
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		毎回セッションの始まりと終わりに保護者様から聞き取りとフィードバックを行い、お子様の状況や課題について密に連絡がとれる関係を作っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		1年に4回、ペアレント・トレーニングと保護者会を行い、保護者様の支援を行っている。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時にご説明し、利用後も疑問やご質問などには丁寧にお答えしている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		契約時と支援計画の見直しをする際には、ガイドラインに沿って作成した児童発達支援計画を示しながら丁寧に説明し、保護者様より同意を得ている	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		専門資格を持つ職員が、定期的に、また必要があれば随時家族相談を行い、助言や支援を行っている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		ペアレント・トレーニング及びその後開催する保護者会の中で、保護者様同士が話をできる場を設けている	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		フィードバック時や電話でのご相談以外にも、ご依頼があれば家族相談の場を設定し、丁寧に聞き取って助言できる環境を整えている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		随時、活動状況や連絡事項をお伝えしているが、今後もより発信の工夫をしていきたい	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		厳重に注意を払って管理している	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ペアレント・トレーニング及び保護者会の中で、お子様と保護者様との関係が良くなるためのサポートをしている。また、円滑な情報伝達のために視覚的に理解しやすい工夫をしている。	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		当事業所は預かり型の施設ではないため、現状ではそのような機会がない。今後必要であれば検討したい
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		契約時にプリントを配布してご説明し、より災害時に生かせる方法を伝達、訓練を実施している	
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		非常災害の発生に備え、防災の研修、訓練を実施している。	訓練実施後に振り返りを行い、安全上改善すべき点を洗い出し、検討している
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		初回面談及び契約時に聴取を行っている	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		当事業所は食を供さないため可能性は低いですが、契約時にアレルギーの有無、主治医などの聞き取りを行っている。必要があれば対応する	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		小さなヒヤリハットから気をつけて意識化し、事例集を共有している	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止はもちろん、社会情勢に応じた内容の研修を実施している	
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している			○		実際に身体拘束を行ったことはないが、安全配慮面で身体拘束を検討する必要があるお子様の場合、その内容、場面について丁寧に検討し、結果については保護者様に報告、了解を得るなどの措置をとる。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。